



C4Cだより

一般社団法人コミュニティ・4・チルドレン
 〒545-0021 大阪市阿倍野区阪南町1-45-1-302
 TEL:06-6622-5645 / FAX:06-6621-7139
 メール:community_4_children@yahoo.co.jp
 HP:https://www.community4children.com/

2021年度定時社員総会を開催いたしました！

2021年7月31日(土)14時～16時30分、当法人事務所よりオンライン配信という形で、2021年度定時社員総会を開催いたしました。zoomでご参加くださった会員・支援者の皆さま、ありがとうございました。

今年は、タイ・フィリピン・カンボジアの連携団体のスタッフにもオンラインで参加してもらい、現在の現地コロナ状況や2020年度の活動報告をしていただきました。一部抜粋にはなりますが、各国からの報告をお伝えいたします。



タイ



ノンメック村
フィールドワーカー
Kantralakさん

コロナ感染症の流行後、人に会うことや集まることが制限されている状況は続いています。今の私の大きな仕事は、村人たちを励まし、一人ではないことを伝え勇気づけることです。頻繁に田んぼに出向くようになったことで、以前よりも村人と会う機会が持てるようになりました。

有機農業の実験農場での稲作や公共地の植林活動は、多世代が参加し、コミュニティの団結力は高まっています。子どもにとって安全で、保護者も安心して預けられるような子どもの居場所づくりにも力を入れ、ボランティアの青年たちと作っています。昨年度は、牛銀行から出た利益で、村の28人の子どもたちに奨学金を提供することもできるようになりました。

私たちが活動する山岳部においても、コロナの影響を大きく受けています。研修や集会を開催するにも、厳しい人数制限や自治体からの許可が必要など、活動するにも様々な制限がありました。

特に、リハビリテーションセンターで療育支援を受けている子どもたちの中には、基礎疾患を持っている子どももいるため、感染からどう守るか、健康をどう支えるかということを優先して活動しました。オンラインでの療育支援を始めたり、免疫力を高めるためにビタミン剤の配布、マスクやフェイスシールド、手指消毒用アルコールなど感染予防セットを配布しました。

フィリピン



JPCOM-CARES代表
Mariebelさん

カンボジア



Khmer Community
Development 代表
Sokhaさん

コロナの影響で休校やオンライン授業が続き教育格差が広がっています。ステイホームが続いていることで、ネットや携帯電話への依存も心配です。長距離移動の禁止で村を訪問することができず、村の子どもたちによる活動も十分なサポートが難しい状況が続いています。

こういった状況の中ではありますが、無料で絵本をダウンロードできるE-Libraryサイトを設置し、子どもたちが本を読める環境づくりを行いました。収入が減少している家庭には、稚魚を配布し自宅の水がめで養殖してもらい、タンパク質源を確保できるようにしました。タイ・ノンメック村とオンラインで草木染めの研修を続けており、コミュニティビジネスにつなげられないか考えています。

新理事就任のご報告とご挨拶

総会にて可決され、宮城の連携団体HumanBeing代表の菅原清香さんが、2021年度より新理事として就任しました！



これまで宮城の連携団体として活動してきた中で、2016年度に開催された4か国ユースキャンプ、タイ・カンボジアでのスタディツアー、カンボジアで宮城の学生と取り組んだ離乳食プロジェクト等で、各国の連携団体と活動をともにする機会がありました。実践内容や活動にかける思いに、いつも本当に多くのことを学ばせてもらっています。このたび理事に就任するにあたって、私自身各国の状況や取り組みについてより深く知りたいと思っています。また、それぞれで取り組まれている素敵な活動を、より多くの日本の皆さんに発信し、日本と各国の皆さんをつなぐお手伝いのできたらと思っています。引き続き今後ともよろしく願いいたします。(菅原清香)

タイ / 「オンラインで会いに行こう！タイ・ノーンメック村」ツアーを開催しました！



8月8日13~15時、オンライン・ツアーを開催しました。日本からの参加者は13組で、ノーンメック村に行ったことがある人が5人、タイに留学など長期滞在したことがある人が4人、その他C4C会員など活動に関心を持つ方、ウェブから検索して本ツアーにたどり着いた方、そして村に行ったことがあるC4C連携団体クメール・コミュニティ・ディベロップメントのカンボジア人スタッフ4人を加え、様々な顔ぶれがそろいました。

毎年、この時期にスタディツアーを実施して、ノーンメック村で、伝統的な協働作業である『結』の形で、村人たちと一緒に

に田植えをしてきましたが、昨年のコロナ禍以降、直接現地に行くことが不可能になりました。それでも現地の活動を応援するためにオンライン・ツアーを企画しました。

タイでは7月に入ってから、大規模クラスターが発生し医療崩壊に直面し、8月末まで多くの県でロックダウンする予定です。そして失業した出稼ぎ者の多くが、地方に帰省し、感染は農村地域にも拡大しています。そんな中、屋外とはいえ田んぼで村人たちが集まることが可能なのか、行政区長や村委員会の委員たちと話し合った結果、マスク、検温、手指の消毒、人との距離を取ることを条件に、ノーンメック村村民に限って集まることが許されました。

8日の田植えの日は、20人以上の大人と子どもたちが集まり2時間ほどで田植えを終えることができました。

オンラインでは、アプリの操作、カメラワーク、現地の通信状況などに問題がありツアーの進行はスムーズだったとは言えませんが、参加者や田植えをした村人の皆さんは短時間でしたが、お互いの様子を見て、言葉を交わしあうことを楽しんだようでした。

コロナ感染拡大の収束はまだ予測できない中、このようなオンラインを通じて、交流を途切れさせないように、次回のオンライン・ツアーも計画中です。(加藤)

フィリピン / 7月は全国しょうがい予防・リハビリテーション週間でした。

毎年7月、フィリピンでは「National Disability Prevention and Rehabilitation Week(全国しょうがい予防・リハビリテーション週間)」が開催されます。今年は、「コロナ禍でのしょうがい児・者の健康と経済面のエンパワメント」がテーマでした。

現地連携団体JPCOM-CARESは、運営するリハビリテーションセンターがある地区の集会所にて、7月28・29日の2日間にわたりセミナーを開催しました。しょうがい児・者の保護者、区長や評議員、ヘルスワーカーなどが参加しました。地域にいるしょうがい児・者を早期に発見し、適切な支援に繋いでいくことを目的に、療育支援やソーシャルワークに取り組むJPCOMのスタッフたちが、療育事例の紹介や保護者から寄せられた悩みや質問に対して情報提供を行いました。ワーカーからは、地域で暮らすしょうがい児・者が抱えている問題やニーズの共有があり、自治体としてどのような対応

やサポートができるのか、意見交換を行いました。

昨年度は、コロナの影響を受けて開催ができませんでしたが、今年度は、地区の協力を得て感染対策を講じて実施することができました。JPCOM-CARESは、しょうがいのある子どもたちが尊厳を持って自立した生活を送っていただける地域

づくりを目指し、アウトリーチ活動を行なっています。コロナの影響で難しい状況は続いています。少しずつ進めています。(山田)



代表の つぶやき

コロナも留まることを知らず変異株の猛威で感染爆発が発生しています。このように危機的で混とんとする現在ですが、新たな出会いに嬉しさを感じることがあります。

障害者就労支援事業所(就労継続支援B型)と、地域・多世代交流を目的としたコミュニティスペースを兼ねたアスノバさんとのつながりです。

宮城で進めている防災ゲームの完成に向けて会員の方から紹介していただき、カード等の印刷やラミネート加工のご依頼をさせていただきます。先日オンラインで打ち合わせした後のディスカッションでは、アスノバさんを含む様々な取り組みを教えていただきました。また、C4Cがフィリピンで長年障がい児・者を支援していることを伝えました。この会話を通じて彼ら彼女らの地域生活のあり方や一人ひとりにふさわしい生き方、働き方について支援者として共感しました。アスノバさんの周辺には医療介護ケア、食堂や駄菓子屋、保育園まで同じエリアで障がいの有無や年齢に関係なく暮らしづくりをしているそうです。

フィリピンでの障がい児・者の地域での暮らしや個性を活かした取り組みの参考になりそうですね。つながりを深めたいと思います。